

# 令和4年度自己評価及び学校関係者評価書 集計結果

令和5年2月16日  
江別市立野幌小学校

## 1. 本年度の重点目標

◎夢をもち 未来を拓く 野小っ子 「かしこく(知) やさしく(徳) 元気よく(体)」

## 2. 自己評価結果に対する学校関係者評価

A：よい B：おおむねよい C：ややよくない D：よくない

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	達成状況の適切さ	改善の方策の適切さ
経営方針の重点	特認校としての特色ある教育課程の編成・実施と学習指導の充実	A	特認校として、地域の特色を生かした教育課程（原始林学習、栽培活動等）の編成・実施に重点を置き、コロナ禍でも活動の継続を目指し、様々な工夫のもと実施してきた。今後も地域素材や人材の活用を図り、地域とともにある学校として魅力ある教育活動を推進していく。	A	A
	愛林班活動の活性化と豊かな心の育成	A	異学年の活動を中心とした愛林少年団を実施、継続していくことで、責任感や思いやりの気持ちを育み、互いのよさを認め合う気持ちを高めるとともに郷土愛や愛校心を高めていく。（今年度は、令和3年度に比べると、異学年交流ができた。）	A	A
	確かな学力の確実な定着	A	全国学力・学習状況調査や学力テストの結果から児童一人一人の実態を的確に把握するとともに、本校ならではの少人数指導のよさを活かした個に応じた丁寧な指導のもと、よく考え学ぶ喜びを実感させるような授業の工夫・改善を進めていく。	A	A
	体力向上の取組と保健・安全・食育の指導	A	新体力テストの結果や日常の体育科の授業から児童の実態を的確に把握し、それらを基にした体力向上プランを作成する。また、実態を踏まえた体力づくりの取組を継続する。さらに、冬期間における屋外活動の実施方法の工夫・改善、環境整備にも努めていく。	A	B
	学校における働き方改革の推進	B	業務内容の見直しとペーパーレス化等の工夫改善をさらに進めるとともに、保護者・地域の皆様への情報発信に心がけ、理解の促進を図っていく。	A	B
	保護者・地域・他機関との連携と協力	B	教育方針や教育活動について保護者や地域に積極的に発信（通信、メール連絡等）するとともに、学校に対する意見や要望を真摯に受け止め、教育活動の工夫・改善を進める	B	A
教育課程学習指導	地域素材・人材の活用、原始林の活用等、学ぶ楽しさを味わうことのできる教育活動の推進	A	体験活動を通して学ぶ喜びや楽しさを味わうことができる教育課程を編成していくために、地域の素材や人材を積極的に発掘し、地域とのつながりを深め、魅力ある教育活動に活用していく。	A	A
	習得・活用・探求の場を設定し、合同授業や交換授業など指導体制の工夫・改善を図る	A	学習サポート教員、学習指導員の配置により個々の学びを高め、ブロックごとの合同授業の実施等を通して互いに高め合う教育活動を推進していく。また、教員による交換授業などを取り入れ、その専門性を発揮することで、学ぶことに対する児童の興味関心を高めるようにする。	A	A

	野小アプローチの確立、家庭学習の定着等、学習習慣の確立を図る	A	国語科の基礎基本の定着に向け「野小アプローチ」を実践し、言語活動の充実を通して児童自らが学習の主体となり、学び合うことに重点を置く。個人懇談や参観日、懇談会、お便りや家庭学習の手引きの配付等により子どもの実態を伝え、家庭学習の定着も含めて保護者の協力も得ながら学力向上を図っていく。	A	A
生徒指導	異学年の集団活動や縦割り班（愛林班）活動を通して好ましい人間関係を構築させる	B	愛林班活動や各種全校活動（ブロック活動）を通して責任感や協調性、思いやりの心の醸成を図っていく。（異学年の交流学習は、令和3年度に比べると実践できた。）	A	A
	日頃よりいじめの実態把握に努め、組織的に迅速に対応する体制をより強固にする	C	全職員で全児童を指導するを合い言葉に子どもたちとふれあい、日常的に実態の交流を図ることはいじめや不登校等の未然防止に努めていく。問題行動等があった場合は担任、特別支援CO、管理職など共通理解を図りながら迅速に組織的な対応をしていく。今年度は、いじめ対応に共通理解が十分でなく、後手に回る事案があった。	B	B
教職員・保護者・地域の連携	教職員全員が児童全員を指導する体制を構築し、こころのふれあいを大切にする	A	実態把握と合わせ、指導を共有し、子どもたちが安心安全に居場所のある学校生活を送ることができるよう保護者とも連携を図り、子どもに寄り添った指導を行っていく。	A	A
	学校・家庭・地域が連携・協力して共に子どもたちを育てるという考え方を共有して日常の教育活動を推進する	B	学校便りや学年通信、HP、メール等により情報発信を心がけるとともに、積極的に保護者や地域の方と顔を合わせて話す機会を設け、双方向のよりよい関係づくりに努めていく。	A	B
	P T A 活動・育成会等の地域の活動に進んで協力し、協調関係を深める	B	野幌自治会や育成会の方、P T A 役員を中心とした会員との連携を強化し、互いに協力しながら特色ある活動を推進し、子どもたちの健やかな成長をめざしていく。（今年度は、令和3年度よりは、活動を行うことができた。）	B	B
体力づくり	体育の授業や全校的な外遊び、野小タイムなどの体力の向上と健全な心身の育成を図る	A	新体力テストの結果等をもとに体力づくりの取組を見直し、課題となった種目の、体育の授業での強化、外遊びの奨励、野小タイムの実施、野小ランの実施、外部講師を活用した走り方教室などの開催、食育指導等、他機関とも連携しながら体力向上や健全な心身の育成を図る。	A	A

【評価項目の設定、達成状況および改善の方策に関する学校関係者評価委員の意見】

・社会的要因や行政的課題を抱えながらの教育現場の苦勞について、対応を求めたい。教育は合理性のみで進めたり、評価すべきものではない。短期的に結果が出るものでもない事で、十分な観察と分析を要するもの。率直な評価を交えながら（過剰反応は避けながら）議論を続けていただきたい。困難にあいつつも、ねばり強く取り組まれている関係各位に敬意を表します。

・野小の魅力であったコミュニケーション（保護者と先生方、又は保護者同士）がコロナにより、とりずらくなってしまいましたが、今度、又、魅力として戻ってきてくれるといいですね。いつでも、子どもも大人も感謝の気持ちを持ち合える仲でいられる環境で有って欲しいと思います。

・これからも、よりよい小学校にすべく活動を継続して行って下さい。

・50人前後の少人数の時と現在のフル人数とでは一概に比較できませんが、特認校に求める要素は変わらないと思いますが、コロナ禍で安全に進めてきた弊害が今後いつそう危惧されます。教職員の方々も来年度以降、複式学級になった時の危機感を共有し、ここまで盛り返した事を知っている方がほとんどいなくなりそうなので、子供達が増えたからと満足せずに、自然によりそった活動を考えてください。

・集計結果は、例えば3名の評価で、A A Bの場合→A A A Cの場合→Bなどとして、評価しています。